

【 71 】

氏名 渡 辺 淳 一

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1767 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和62年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 胆汁酸に関する研究

第1編 Application of a 3α -Hydroxysteroid Dehydrogenase Column to the Determination of Bile Acids Fractionated by High-Performance Liquid Chromatography : Advantage of Pretreating Human Bile Acids with Seppak C18 and Piperidinohydroxypropyl Sephadex LH-20 (3α -HSD カラムを組み合わせた高速液体クロマトグラフィーによる胆汁酸の定量について—Seppak C18 と PHP-LH-20 による前処理の有用性)

第2編 コレステロール胆石症に対する内科的溶解療法の検討—治療による胆汁中胆汁酸分画の分析も含めて—

論文審査委員 教授 産賀敏彦 教授 太田善介 教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高速液体クロマトグラフィーに 3α -hydroxysteroid dehydrogenase (3α -HSD) を固相化カラムとして、組み合わせ、胆汁酸微量分析について基礎的検討を行った。前処理に、Seppak C18 と piperidinohydroxypropyl Sephadex LH-20 (PHP-LH-20) を用い、胆汁酸を遊離型、タウリン抱合型、グリシン抱合型に 3 分画した。分離カラムには Zorbax ODS を用いた。この方法により、主要胆汁酸 15 分画が明瞭に分離され、10ng から 125ng まで定量性が得られた。又、 3α -HSD 活性は、分析開始後 24 日間は、維持され、400 検体以上が分析可能で、臨床応用に適すると考えられた。

胆石溶解剤のウルソ (UDCA) と ケノ (CDCA) デオキシコール酸、Oddi 筋弛緩剤 Trihydroxy propiophenone の併用療法をコレステロール胆石症患者 83 名に施行した。施行後 6 カ月で、全体の溶解率は 41% で、内、完全溶解は 14.5 % であった。中でも、UDCA・CDCA 各 300mg/日の併用群で、最も高い溶解率 69.2 % が得られた。投与前後の胆汁中胆汁酸分画や Lithogenic index と溶解効果とは、必ずしも関連性はなかった。女性患者、胆のう収縮良好例は溶解療法の良い適応条件と考えられた。又、胆石溶解療法は血清脂質

には有意の影響を与えなかった。

なお、本論文第1編は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は、胆汁酸微量分析法の開発とその臨床的応用および胆石溶解療法の臨床的研究であるが、定量試薬としての固定化酵素の安定化条件および試料の前処理法を完成して臨床的応用を可能にし、また、胆汁酸併用療法の有効性と安全性について詳細に検討した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。